

出張報告書

令和 1 年 12 月 4 日

会派名 志誠会
会長 立崎 聡一 様

出張者氏名 近藤 憲治 

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和1年12月2日～令和1年12月3日 [2日間]						
出張概要	①	月日	12月3日	市町村名	東京	会場	憲政記念館
		目的	統合医療推進議員連盟総会				
		テーマ	・統合医療を巡る最新の情報を調査及び地方議員同士の意見交換				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的	移動日				
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

統合医療に係る調査（東京）

いわゆる科学的治療を重んじる西洋医学と気功や漢方などを重んじる東洋医学、さらには精神的な安定をも視座に入れる「統合医療」の現状について、調査を行うべく、統合医療推進議員連盟第19回総会に参加した。総会では、上智大学グリーンケア研究所所長・東京大学名誉教授 島藺 進 氏が「統合医療・スピリチュアリティ・ソーシャルキャピタル」と題して講演した。島藺氏は「経済成長を重視する合理集だけでは、人間の身体、精神がもたなくなることが自覚され、一方で、環境問題も顕在化し、心身の健康、人間を取り巻く環境の改善、さらに、心の部分では、数値が理論化できない部分の状態までも含めた健康の在り方が模索されるようになってきている」と強調。「伝統的な医療やケアの領域ではスピリチュアリティが改めて重視され始めた」と述べた。また、WHO（世界保健機関）においても、「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、スピリチュアルにも、すべてが満たされた状態にあることをいいます」と定義の変更が1999年の総会で提案されるに至っているとのことであった。一方、我が国においては、これまで人々の健康や生命を守る要素として機能してきた「地域のつながり」や「隣人同士の助け合い」が希薄化し、その分を行政が補わなければならなくなっている。このソーシャルキャピタルの劣化は、「今後、我が国において大きな問題となる。今後は支えあいや助け合いを念頭に置いた「共感の倫理に根差したまちづくり」が大切である」と話していた。総会後には、統合医療について関心を寄せる全国の地方議員10人で座談会を行い、各地域での統合医療の現状について意見交換を行った。